

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成20年10月16日 (2008.10.16)

【公表番号】特表2004-508339(P2004-508339A)

【公表日】平成16年3月18日 (2004.3.18)

【年通号数】公開・登録公報2004-011

【出願番号】特願2002-524528(P2002-524528)

【国際特許分類】

A 6 1 K 39/002 (2006.01)

A 6 1 K 39/02 (2006.01)

A 6 1 K 39/04 (2006.01)

A 6 1 K 39/106 (2006.01)

A 6 1 K 39/112 (2006.01)

A 6 1 P 37/04 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 39/002 Z N A

A 6 1 K 39/02

A 6 1 K 39/04

A 6 1 K 39/106

A 6 1 K 39/112

A 6 1 P 37/04

C 1 2 N 15/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成20年8月27日 (2008.8.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

免疫原性決定要因として微生物病原体を含有し、
前記微生物病原体が予めストレス誘発刺激を受けたものであるワクチン。

【請求項 2】

前記ストレス誘発刺激が、微生物によって熱ショック蛋白質を発現する請求項 1 に記載のワクチン。

【請求項 3】

前記ストレス誘発刺激が、熱ショックまたは浸透圧ショックである請求項 1 または請求項 2 に記載のワクチン。

【請求項 4】

前記ストレス誘発刺激は、熱ショック蛋白質の少なくとも一つのリプレッサ遺伝子を不活性化し、それにより熱ショック蛋白質遺伝子の発現を可能にするような微生物病原体の遺伝子改変である請求項 1 に記載のワクチン。

【請求項 5】

前記遺伝子改変により h s p R リプレッサ遺伝子が不活性化される請求項 4 に記載のワクチン。

【請求項 6】

前記遺伝子改変により、ストレス遺伝子調節蛋白質遺伝子 M e r R もしくは H m r R が不活性化される請求項 4 に記載のワクチン。

【請求項 7】

前記遺伝子改変により、転写制御遺伝子 または が不活性化される請求項 4 に記載のワクチン。

【請求項 8】

前記微生物病原体は、伝染病を誘発することが可能な何れかの病原体である請求項 1 ~ 7 の何れかに記載のワクチン。

【請求項 9】

前記微生物病原体は、細菌、原生動物、菌類または寄生生物である請求項 1 ~ 8 の何れかに記載のワクチン。

【請求項 10】

前記微生物病原体は、マイコバクテリア、サルモネラ属、ビブリオ属、リステリア属、ストレプトマイセス属、ヘリコバクター属およびラクトコッカス属からなる群から選択されるワクチンである請求項 9 に記載のワクチン。

【請求項 11】

前記微生物病原体は弱毒化されている請求項 1 ~ 10 の何れかに記載のワクチン。

【請求項 12】

アジュバントをさらに含む請求項 1 ~ 11 の何れかに記載のワクチン。

【請求項 13】

前記アジュバントは、フロイント完全アジュバント、フロイント不完全アジュバント、I S C O M 社製（免疫刺激複合体）Q u i l A および D e t o x ならびにスクアレンからなる群から選択される請求項 12 に記載のワクチン。

【請求項 14】

注射による投与に適する請求項 1 ~ 13 の何れかに記載のワクチン。

【請求項 15】

経口投与に適する請求項 1 ~ 13 の何れかに記載のワクチン。

【請求項 16】

無針送達形式による送達に適する請求項 14 に記載のワクチン。

【請求項 17】

請求項 1 ~ 13 の何れかに記載のワクチン組成物を、ヒト以外の動物に免疫反応を引き出すのに十分な薬学的に許容可能な量を投与することを含むヒト以外の動物にワクチンを接種する方法。

【請求項 18】

前記ワクチンを予防ワクチンとして投与する請求項 17 に記載の方法。

【請求項 19】

前記ワクチンを治療ワクチンとして投与する請求項 17 に記載の方法。

【請求項 20】

前記ワクチン組成物を注射により投与する請求項 17 に記載の方法。

【請求項 21】

前記ワクチン組成物を無針送達により投与する請求項 17 に記載の方法。

【請求項 22】

前記ワクチン組成物を経皮的に投与する請求項 17 に記載の方法。

【請求項 23】

前記ワクチン組成物を肺送達により投与する請求項 17 に記載の方法。

【請求項 24】

前記ワクチン組成物を経口的に投与する請求項 17 に記載の方法。

【請求項 25】

ストレス誘発刺激を微生物病原体に与える工程と、免疫原性決定要因として前記ストレスを与えられた微生物をワクチン組成物の調製に使用する工程とを含む、免疫原性決定要

因を含むワクチン組成物の製造方法。

【請求項 26】

ストレス誘発刺激は、熱ショックまたは浸透圧ショックである請求項 24 に記載の方法。

【請求項 27】

ストレス誘発刺激は、熱ショック遺伝子の発現を抑制する遺伝子の不活性化である請求項 25 に記載の方法。

【請求項 28】

リプレッサ遺伝子が h s p R 遺伝子である請求項 27 に記載の方法。

【請求項 29】

リプレッサ遺伝子が M e r R もしくは H m r R である請求項 27 に記載の方法。

【請求項 30】

前記微生物病原体細胞が前記ワクチンに使用する前に不活化されている請求項 25 ~ 29 の何れかに記載の方法。

【請求項 31】

前記微生物病原体細胞は前記ワクチンに使用する前に乾燥させてある請求項 25 ~ 29 の何れかに記載の方法。

【請求項 32】

前記組成物が水溶性組成物である請求項 25 ~ 31 の何れかに記載のワクチン組成物。

【請求項 33】

前記組成物は乾燥組成物である請求項 25 ~ 31 の何れかに記載のワクチン組成物。

【請求項 34】

前記組成物は凍結乾燥された組成物である請求項 25 ~ 31 の何れかに記載のワクチン組成物。

【請求項 35】

熱ショック蛋白質の少なくとも一つのリプレッサ遺伝子を不活性化し、それにより熱ショック蛋白質の構成的発現が可能になるように、予め遺伝的に改変した異種抗原の発現をさらに可能にする病原性微生物のワクチン・ベクターとしての使用。

【請求項 36】

前記病原性微生物は、ワクチン・ベクターとしての使用に適當である原核生物である請求項 35 に記載の病原性微生物の使用。

【請求項 37】

前記原核生物は B C G であり、異種抗原断片は、破傷風トキソイド断片 C である請求項 36 に記載の病原性微生物の使用。

【請求項 38】

前記原核生物は、サルモネラ属またはラクトコッカス属であり、ワクチンは経口的に投与できる請求項 36 に記載の病原性微生物の使用。

【請求項 39】

熱ショック蛋白質の少なくとも一つのリプレッサ遺伝子を不活性化し、それにより熱ショック蛋白質の構成的発現が可能になるように、予め遺伝的に改変した病原性微生物の、サブユニットおよびマルチ・サブユニット・ワクチン中で使用する熱ショック蛋白質ペプチド複合体の資源としての使用。